

支部だより

ラオス支部

坂牧嘉昭(1c 昭 42)

「ラオス外語会」(東京外語会ラオス支部)会員は、只今の瞬間風速で9人となっています。今までにない大人数ですが、このほかに、今年より大阪外大卒の方が2人当地に滞在していることが分かりました。会報の海外支部の便りを見ますと、国によっては大阪外国語大学の卒業生も会員に加わり、ところによっては支部長に大阪外国語大学卒の方がなっておられるケースも見受けられます。そこで、当「ラオス外語会」にも、この大阪外国語大学卒のお二方も仲間に加わっていただくことにしました。結果、10月19日現在11人の会員となっています。



10月19日には、久々に我が家に集まっていたき、家内の作ったスリランカン・カレーを楽しみながら、歓談の時を過ごしました。会員の方々には、果物・ケーキ・飲み物・スナックなどを持ち寄っていただきました。一時は会員が4人足らずになって、寂しい感じでしたが、今はこの大人数です。もうすぐ、JICEの東江くんが帰国しますが、彼は来年また帰ってくると思っていますので、しばらくの間はこの規模を保てるものと思います。外語関係者にはもっともっと来てもらいたいと

思っています。

当地は、8月12日頃をピークに、42年ぶりのメコンの大増水となり、ビエンチャンの町も洪水の危機に晒され、軍隊、学生、教員、役人、一般市民等総動員されて、メコン河沿いの堤防に土嚢がうずたかく積まれました。その土嚢は今も全部は片付けられず、メコン河に近い道路沿いではまだ積まれたままです。また、去る9月9日23時、ヌハック・プムサワン元大統領が逝去されました。10日から14日まで、国を挙げて喪に服しました。これで、1975年の革命を牽引した「カイソン+ヌハック」という2人の巨頭がこの世を去り、ラオス人民革命党の初期指導層の大方が第一線から姿を消しつつあり、世代交代の感を強くしています。「時の流れ」をひしひしと感じております。10月14日には、7月17日に始まった僧侶の修行期間「パンサー(雨安居)」が終わり、10月15日には、満々の水を湛えたメコン河にて勇壮な「ボート祭」(香港・バンコクでも行われる長崎のペイロンに似た50人の漕ぎ手によるボートレース)が開催され、ひとまず雨季の終焉を祝いました。(昨日、一昨日とまだ夜中に雨が降りましたが・・・)

今は、11月12日の「タットルアン大祭」に向けて、すでに準備が進められています。この祭には、ビエンチャンの周辺の県の住民は勿論、対岸のタイからも善男善女が托鉢のお供物を準備して早朝から集まり、タットルアンの内庭と外苑、更に広大なタットルアン広場は携行した莫蔭の上に座った家族連れで埋め尽くされます。これが終わると、12月2日の革命記念日の祝賀式典になるわけですが、今年は、「ラオス人民革命党結党60周年」と

いわれ、祝賀式典は例年よりも大掛かりなものになるようです。

以上、当地の近況を少しだけお知らせいたしました。

新潟支部会報告

稲垣文雄 (F 昭 49)

2008 年度新潟支部会 (会員数 132 名) が 9 月 15 日、会員の上原誠己氏 (F 昭 49) の兄上が経営する、日本の地ビール第 1 号である越後ビールで開催され、会員 16 名とその家族が参加した。

総会では、会務報告、会計報告の後、山本虎男支部長 (In 昭 24)、栃倉浩事務局長 (R 昭 41) からの勇退表明を受けて、後任に稲垣文雄 (F 昭 49)、富山栄子氏 (R 昭 61) がそれぞれ選出された。退任にあたり、栃倉氏から新潟支部の来歴が披露され、かつては少数の高齢会員のささやかな集まりであったが、近年は若い会員の支部会出席が増え、配偶者やお子さんと共に参加するなど親睦の会になったと感慨深げにお話しになった。25 年に亘って支部の運営を担ってこられた栃倉氏に出席者一同から惜しみない感謝の拍手が贈られた。事務局には、これまで支部の事務業務を支えてきた和泉田祥子氏 (R 平 3) に加えて、守田奈津子氏 (R 昭 62) が新たに参加し、若い力で支部の運営を進めることになった。

引き続き懇親会に移り、島田久一氏 (C 昭 26) の音頭で乾杯した後、築木力氏 (F 昭 26) から、当日出席者全員に贈呈された近著についてのお話をうかがった。一同、饗饌として活動を続けておられる大先輩の熱意あふれる言葉に耳を傾けた。

その後、シェフお任せのイタリア料理のコースに合わせて、酵母の生きている各種地ビールが次々とサービスされ、テーブルに運ばれてくるビールの色合いと味が次第に濃くなるにつれて会食者の顔の赤みも増し、談笑の環が広がった。こうして穏やかな初秋の 1 日

を堪能したのち、一同、恒例の記念写真におさまった。



香港外語会

磯部聡子 (E 平 7)

香港外語会では昭和 18 年卒から平成 17 年卒まで幅広く 50 名あまりの会員登録をいただいております。定期的な活動として春と秋の年 2 回の懇親会を行っております。10 月 24 日にワンチャイの日本料理店にて開催した秋の会合では、深圳在住の方々にもご参加いただき、また西ヶ原キャンパスをクラブ活動でしか知らない世代も加わり、小規模ながら和気藹々と楽しく過ごしました。アジアの金融中心都市として、また中国本土への窓口都市として、以前は多くの企業が駐在員を派遣、香港外語会も一時は 30 人以上の人数を集めて開催されていたようですが、最近では中国本土への企業の直接進出が進んでいることなどを背景に、回をおうごとに小規模な集まりとなっているのが悩みです。また昨年からの「100 年に 1 度」の金融危機が金融と不動産で成り立っているこの都市に与える影響は非常に大きく、今後ますます在留邦人が縮小するのではないかと心配されますが、今後は深圳や広州からの参加者もひろく募り、なんとか会を盛り上げて行きたいと考えております。香港、および華南地区ご在住の卒業生の方々で会員登録をなさっていない方はぜひ幹事までご連絡ください。外大に留学なさっていた香港、中国



の方の参加も大歓迎です。連絡先は幹事早川亜美、
hkgaigokai@hotmail.com
までお願いいたします。
(前幹事)

第4回&第5回プラハ外語会

佐藤徳子 (CZ 平 16)

3月7日(金)、レストラン「Posezeni U Ciriny」にて、第4回プラハ外語会が開催されました。今回は2005年のプラハ支部発足から第3回までの幹事を務められ、3月末にご帰任になった富さんの送別会を兼ねての会でした。前回から約半年の間に会員数は20名に増え、今回の出席者は3名の現役学生を含め、13名となりました。富さんよりプラハで過ごされた3年間のお話、今後の予定を伺ったり、現役学生の皆さんの意見が飛び交ったりと、大変盛り上がりを見せた会でした。

当日の出席者は板倉正毅 (D 昭 36) 深見守 (H 昭 37) 富通夫 (R 昭 46) 伊川久美子 (R 昭 51)



澤野順一 (R 昭 60) 大井美和 (D 平 3) 佐藤徳子 (CZ 平 16) 金子由紀子 (CZ 平 16) 今林由佳 (CZ 平 16) 室谷佳世子 (CZ 平 17) 揚岩康太 (CZ 在学中) 綾目由実 (CZ 在学中) 梅窪温子 (CZ

在学中) (上掲写真)

そして11月21日(金)には、日本食レストラン「雅-Miyabi」にて、第5回プラハ外語会を開催しました。現役学生も含めると会員は24名に増え、前幹事・富さんからのメッセージを板倉会長よりご紹介頂いたり、現役学生たちが留学生として勉強している学校について質問したり、そして久しぶりに再会した新メンバーと近況を報告しあったり、今回も大いに盛り上がり、今後のプラハ外語会のますますの発展を期待させる会でした。

当日の出席者は16名で、板倉正毅 (D 昭 36)、深見守 (H 昭 37) 伊川久美子 (R 昭 51) 澤野順一 (R 昭 60) 半田幸子 (CZ 平 13) 江角藍 (CZ 平 15) 野中千草 (D 平 15) 佐藤徳子 (CZ 平 16) 金子由紀子 (CZ 平 16) 今林由佳 (CZ 平 16) 室谷佳世子 (CZ 平 17) 北原優 (CZ 平 18) 中崎ゆかり (CZ 在学中) 尾形祐美 (CZ 在学中) 小川桂 (CZ 在学中) 松沢佑実 (CZ 在学中)。



バルセロナ支部

満畑和子 (S 昭 49)

外語会バルセロナ支部は会員3名という小所帯ですが、今年は全員参加で忘年会を決行することになりました。以下バルセロナ便りです。

この春、マドリッドとバルセロナを結ぶ高速新幹線 AVE が遅れに遅れてやっと開通しました。スペインの荒野を時速 300km でゆうゆ

うと進みます。将来はバルセロナからフランス国境へ達し、ナルボンヌあたりで TGV に接続するそうです。そのために AVE はバルセロナの中心部の地下を横断するのですが、あの聖家族教会のそばを通るため、沿線の住民と聖家族教会建設委員会が合同でガウディの傑作が危険にさらされるとして反対運動を進めています。しかし AVE が通るのは、今突貫工事をやっている新しいファサードの側であって、これはガウディの傑作とは無関係ではないかという意見もちらほら。

建築と言えば、最近までバルセロナでは世界の有名建築家の高層ビル建築ラッシュでした。そのスカイラインを一新したのは何といってもジャン・ヌーベルの砲弾型オフィスビル。伊東豊雄氏が設計したバルセロナ見本市の建物はまだ建設中ですが、不動産バブルの崩壊と金融危機にもかかわらず、もうじき完成するそうです。話が戻りますが、AVE の開通の結果、マドリッドとバルセロナを結ぶイベリア航空のドル箱路線の客が 40% も減少したと伝えられています。しかし皆が AVE に移ったわけではなく、出張費削減のためローコスト航空便にビジネス客が流れているそうです。一方、ローコスト便のお陰でヨーロッパ諸都市は身近な存在となり、ローマに飛んでジョヴァンニ・ベリーニ展を見たり、ミュンヘンでケント・ナガノの指揮する「ヴォツェック」を観て来るなんてことも夢ではなくなったのです。不動産バブル後のスペインでは、バレンシアとバルセロナを結ぶ地中海沿岸地域がマドリッドと同等の、あるいはそれをしていく経済力をつける可能性もあるとされています。マドリッドとバルセロナの関係は歴史的に複雑なものがあるのですが、国境を越えてマルセーユまでを含めた地中海沿岸産業圏を形成しようという大志を抱いているのがバルセロナ。それにはまずインフラ整備からということで、バレンシアーバルセロナーマルセーユを結ぶ新幹線の建設を望む声が高まっています。その動きに沿って 11 月初めバルセ

ロナに「地中海のための連合」の常設委員会が設置されることに決定。EU とアラブ諸国連合の肝入りで、地中海の北側と南側を結んで経済発展と文化交流を計ろうという大構想です。その昔地中海は南北に切断されることのない一大文明圏を構成していたのですから。



最後に、秋の味覚と言えばやはりキノコです。バルセロナの住民は秋になると週末には家族や友人を誘い合っけいっせいにキノコ狩りに行くため、地元の人に山を荒らすと嫌われるくらいです。一番ポピュラーなのはロベリオン *lactarius deliciosus* という文字通り美味なキノコですが、通が食べるキノコはその名もズバリ、シーザーのキノコ *amanita caesarea*。加熱したフライパンにまずバージンオイルを布き、スライスしたこのキノコをやや強火でキツネ色に色づくまでパリッといためるのがコツです。それに塩をパリとふるだけで王者の味覚を満喫できます。

.....(つどい 43 頁より つづき).....

イスパニア会第 32 回例会開催

12 月 7 日(日)例会を本郷サテライトで開催した。講師は小林利郎氏(昭 31 年卒元東京銀行役員、ブラジル東銀頭取)にお願いし「スペインの国際関係」のテーマで約 90 分にわたり 16 世紀から現代までのスペインの政治・経済について語って戴いた。約 25 名参加、質疑応答も活発に行われた。終了後懇親会を行った。次回は 2009 年 6 月を予定。(S 昭 33 森和重記)